

平成 26 年度研究プロジェクト

「サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究」分析レポート

チュニジアにおけるイスラーム武装闘争派:バルドー博物館襲撃に寄せて

上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

若桑 遼

2015 年 3 月 18 日に起こったチュニジア・バルドー博物館襲撃は、チュニジア史のなかで、テロ行為による最大の犠牲者を出した事件として記録された。日本人観光客 3 名を含む 22 名が犠牲となり、チュニジア治安関係者 2 名が殺害された。本稿では、同事件の背景を考察するため、一国を超えるチュニジア人ジハード主義者の動きを取上げ、今後の動向を展望する。

1. 国境を越えるチュニジア人ジハード主義者

チュニジアでのテロを理解するためには、チュニジア一国内だけでなく、国境を越えるチュニジア人ジハード主義者の活動に注目する必要がある。

2011 年のシリア内戦勃発以降、シリアの戦地に入るチュニジア人の数の増加が確認されている。2013 年 3 月以降、政府によってシリア渡航を禁じられたチュニジア人の数は 9000 人近くに上る。チュニジア内務省が提供する情報によれば、チュニジアの政変以降、2500 人から 3000 人のチュニジア人がシリアで戦闘に従事し、うちおよそ 500 名が戦死したとされる¹。他方、アメリカ合衆国のシンクタンク・ワシントン近東政策研究所 (The Washington Institute for Near East Policy) は、独自の調査により 2013 年末までにシリアで戦死したアラブ諸国の戦闘員の数を提示している。それによればサウディアラビア出身者が 267 名、リビア出身者が 201 名、ついでチュニジア出身者が 182 名であり、そのあとにヨルダン 95 名、エジプト 79 名が続く²。すなわち、チュニジアはアラブ諸国で三番目に多い戦死者を出していることになる。チュニジア人戦闘員の多くは、はじめカーイダ系のヌスラ戦線やその他のジハード主義組織に所属したことが確認されるが、「イスラーム国」がイラク・モースルを掌握した 2014 年 6 月頃を境に、「イスラーム国」に所属を移したとみられる。現在は大多数のチュニジア人戦闘員 (およそ 80 パーセント) が「イスラーム国 (IS)」に属する³。

¹ ロトフィー・ベン・ジェッドウ・チュニジア内務大臣の談話。Othmān Laḥyānī, “Wazīr al-Dākhilīya al-Tūnisī Luṭfī Ben Jiddū fī ḥiwār lil-Khabar (ロトフィー・ベン・ジェッドウ・チュニジア内務大臣、『ハバル』との対話),” *al-Khabar (Al-Jazāir)*, 29 November 2014. ただしムハンマド・アリー・アラウィー・内務省スポークスマンは、別の機会でシリアで戦闘に従事するチュニジア人は、最大で 4000 名であると推定している。H. B. “Enquête (II et fin)- Mohamed Ali Laroui, Porte-parole du Ministère de l’Intérieur: A Tataouine, nous venons de démanteler la cellule la plus dangereuse engage dans le jihad (取材 (II 完)、ムハンマド・アリー・アラウィー・内務省スポークスマン: タターウィーンにおいて、私たちはジハードに従事する一番危険な細胞組織を解体したばかりだ),” *La Presse Tunisie*, 11 June 2014.

² Aaron Y. Zelin, “Foreign Jihadists in Syria: Tracking Recruitment Networks,” *Policy Watch 2186*, The Washington Institute for Near East Policy, 19 December 2013.

³ Sarḥān al-Shaykhānī, “Luṭfī Ben Jiddū: 2400 Tūnisī yuqātilūn fī Sūriyā wa khutṭa lil-taṣaddā li-Dāish (ロトフィー・ベン・ジェッドウ: シリアで戦闘に従事するチュニジア人は 2400 名、ISIS に呼応する計画),” *al-Shurūq (Tūnis)*, 24 June 2014.

隣国リビアの情勢は、チュニジアの治安情勢をも規定する。チュニジア側からみてリビアは、武器の密輸源であり、テロリストの訓練地である。そのため、チュニジア政府は、共和国アレテ（2013年8月29日付2013年230号）を發布し、チュニジア南部砂漠のアルジェリア・リビア国境に緩衝地帯を設置している。ラフムーニー・チュニジア国防省スポークスマンは、この措置について、「チュニジア砂漠の緩衝地帯を設置する共和国アレテの發布は、治安上の脅威の増大、テロ組織の脅威の増大、武器・弾薬・麻薬の売買と支援物資の密輸の組織的犯罪ネットワークの活動の増大、それに加えて、国境監視をつかさどる治安部隊への武器の使用の影響を理由とする⁴」と説明している。

チュニジア人ジハード主義者の大半は陸続きのリビアに入り、当地で軍事訓練を施される。その後、チュニジアに戻り、入国の査証が不要なトルコを経由して、シリア又はイラクの戦地へと向かう。

こうした動きは、リビアにおけるIS勢力の伸長とも関係していると考えられる。ISに忠誠を誓う組織が、リビア東部の都市デルナ（Derna）を実効支配したが（2014年11月19日）、当地は多国籍の外国人ジハード主義者からなる中心的拠点形成しており、ISの「飛び地」のような様相を呈している。2015年2月には、リビア中部のシルト（Sirte）でエジプト人コプト教徒21名が殺害されたとみられる映像が公開され、ISの拠点が地中海沿岸部の諸都市に伸びていることをうかがわせた。リビアのISは、「トリポリ州」（Wilāya Ṭarābulṣ）、「バルカ州」（Wilāya Barqa）、「フェッザーン州」（Wilāya Fezzān）という三つの行政区分を用いており、それぞれの州に外国人指揮官を配置している。チュニジアと国境を接するトリポリ州の指揮官はチュニジア人、バルカ州はイエメン人であり、幹部層の多くは非リビア人戦闘員である。

以上のような背景から、周辺諸国から流入するISの外国人戦闘員によるリビア国内でのテロが多発している。たとえば、トリポリで起きたコリンシア・ホテルの襲撃（2015年1月27日）の実行犯はチュニジア人1名とスーダン人1名であった。リビア軍の本部のある町クッパでの自爆テロ（2015年2月22日、44名死亡）はサウディアラビア人2名によって実行された。ISに帰属することを望むチュニジア人ジハード主義者にとって、国境を接するリビア（とくにその地中海沿岸部）はもっとも接近しやすいISの領域になりつつある。

2015年3月に入って、アフマド・ラウーシー／戦士名アブー・ザカリヤー（Aḥmad al-Rawīṣī/Abū Zakariyā'）という名のチュニジア人戦闘員が、リビアのシルトの武力衝突で戦死した（2015年3月15日）。この人物に関して、ISの機関紙『ダービク（Dabiq）』（2015年3月、第8号）上で、ブー・バクル・ハキーム／戦士名アブー・ムカーティル（Bū Bakr al-Ḥakīm/Abū Muqāṭil）という別のチュニジア人戦闘員のインタビューが掲載されている。両者は、チュニジアのアンサール・シャリーアに帰属したメンバーで、チュニジア国内での野党政治家暗殺の実行者であるとして、同国の当局から指名手配を受けている。ハキームの証言によれば、チュニジア人ジハード主義者はリビアに軍事拠点を形成し、当地からチュニジアに武器を密輸し、チュニジアでの暗殺事件を企てたとされる⁵。またラウーシーは、チュニジアで指名手配を受けた後、リビアのシルトでIS系のジハード主義組織に加わり、「責任者」としてチュニジア人ジハード主義者に軍事指導を施し、その一部をチュニジア国内に派遣したとみられる。このようにチュニジア国内のテロリストにとって、リビアという場は基地及び避難場所として決定

⁴ Aḥmad al-Nazīf, “Murāqibūn: Iqāma minṭaqa ‘āzila bi-Tūnis bi-hadaf man’ tahrīb al-silāh (観察者:チュニジアの緩衝地帯の設置は武器の密輸を阻止することを目的とする),” al-‘Arabīya, 6 September 2013.

⁵ A. N. “Interview with Abū Muqāṭil,” *Dabiq*, Issue 8 ([A. H.]1436 Jumada Al-Akhira [2014 March-April]), pp. 60-61. Hayat Media Center.

的な重要性をもつことが理解される。

2. バルドー博物館襲撃事件

(1) 国家の中枢への攻撃

この事件では、若いテロリストにより国家の中枢が標的とされた。チュニジアは2014年2月10日に第二次共和制を高らかに宣言し、2014年末に議会選挙と大統領選挙を終えた。しかし革命後のチュニジアでは、民主化と並行して、イスラーム過激派の動きも活発化している。過激派は、2013年には2名の政治家を銃殺し、2014年7月には国軍を標的とした攻撃を行った。2015年2月には、チュニジア内務省の襲撃未遂事件を起こし、この襲撃に関与したとして、32名が当局に拘束されている。チュニジア人イスラーム過激派は、「一国主義的ナショナリズム」を基盤とする現在の体制を打倒し、イスラーム法（シャリーア）に基盤をもつ「イスラーム主義的」体制を樹立しようとしている。彼らにとっては、民主主義体制自体がイスラームに反する「不信仰」なものである。襲撃されたバルドー博物館は、立法機能の中枢である人民代表議会に隣接されており、国家の喉元でテロが起こったわけである。この攻撃は、国民経済の主幹である観光を標的としたとも推測される。

(2) 攻撃の対象となるのは誰か

過激派のテロ攻撃の対象は主に2つである。その標的は「背教者 (murtadd)」と「不信仰者 (kafir)」という二つの「敵」である。「背教者」とは、ムスリムでありながら、イスラームに背く者である。とくに国軍、治安関係者、警察は恒常的に脅威にさらされている。2014年7月16日、カセリーン県シャアーニビー山岳地帯で国軍の駐屯する監視ポストを標的としたふたつの同時攻撃によって、少なくとも軍人15名が死亡し、20名が負傷した。ムハンマド・ムンスィフ・マルズキー・前チュニジア共和国大統領は、この攻撃を「1956年の独立以降、チュニジア国軍が成立して最大の犠牲」と評した。次に「世俗派」とみなされる政治家やメディア要人、ジャーナリストが標的とされる。実際に、アンサール・シャリーアによるチュニジア人政治家の暗殺が行われ、首相辞職など深刻な政治的・社会的危機を引き起こしている（2013年2月6日、7月26日）。

「不信仰者」とは、イスラームを信仰しない者である。とくに「十字軍」と彼らが呼ぶところの「欧米人」が対象となる。ISが日本人質を殺害した事件は、チュニジアのISシンパにとって日本人が「敵」であるとみなされたことを意味する。隣国リビアの事例を参照にすれば、在トリポリのアルジェリア大使館（2015年1月17日）、韓国大使館（2015年4月12日）、モロッコ大使館（2015年4月13日）が立て続けに攻撃を受けており、今後チュニジア国内の在外公館も同じく標的となることは考えうる。またトリポリのコリンシア・ホテルの襲撃事件（2015年1月27日）にみられるように、とくに欧米出身の外国人が利用する宿泊施設は攻撃の対象となりうる。

(3) イスラーム過激派のメディア戦略

バルドー博物館襲撃により、ISに忠誠を誓うジハード主義組織は、国内外に存在を知らしめることに成功した。チュニジアのジハード主義者の活動の広報を担う、「イフリーキヤ・メディア (Ifriqiya lil-I 'lam)」というツイッター上のアカウントではこの事件の顛末を詳細に追っている。同アカウントは、「チュニジアで起こっていることの解説」と題して、チュニジアのジハード主義細胞組織が少なくとも4つ存在することを明らかにした⁶。すなわち、イスラーム・マグリブ諸国のカーイダ (AQMI) の傘下

⁶ この声明は、<https://twitter.com/ifri011> で確認できたものの、同アカウントが凍結されたため、閲覧できなくなって

にある「ウクバ・イブン・ナーフィウ部隊」、IS に帰属する「チュニジアにおけるカリフの兵士」、独立の「イフリーキヤ諸国のタウヒード・ジハード集団」、IS に帰属する「カリフの兵士の先駆者たち」である。襲撃事件後、はじめて IS に忠誠を誓う細胞組織の存在が明かされたのである。主にチュニジア人を構成主体とするこれらのジハード主義の細胞組織は、互いにネットワークを構築しているとみられる⁷。

3. 今後の動向

リビアにおけるチュニジア人戦闘員による自爆攻撃は、2015 年に入って顕著になっているが、バルドー博物館襲撃の「成功」により、今後はリビアでジハードに従事するチュニジア人戦闘員がチュニジア国内、とくに首都チュニスでテロ行為に動く可能性がある。

チュニジア国内のジハード主義の細胞組織は、バルドー博物館襲撃後につきのような声明を發した。

「ムスリムたちよ、今回は歓喜せよ。しかし沈黙をもって (bil-ṣamt)、だ。合議 (al-majālis) でそれを公言してはならない。ソーシャル・メディア (al-mawāqī ‘ al-ijtima ‘īya) でそれを公にしてはならない。諸君たちのあいだで、そして自分たち自身のなかに歓喜を隠すがよい。神に誓って、諸君らは、将来、路上でも広場でも歓喜するであろう。不信仰者たち、偽善者たちは、諸君らの歓喜を憎み、諸君らは彼らに憎しみと悲しみを抱かせたまま、死に至らしめるであろう⁸。」(下線ママ) 上記の声明ではジハード主義者の意図が 2 点、理解される。①治安当局の監視を免れるために地下に潜伏すること、②博物館襲撃の実行者にさらなるテロ行為を行う意志をもつことである。

以上で考察してきたとおり、一国を越えたジハード主義者のネットワークを踏まえながら、チュニジア国内における地下の組織細胞の動きを注視する必要がある。シリア、イラク、リビアへの渡航者の数の増加は、国外のイスラーム武装闘争派にとってチュニジアが継続的なリクルートの源であることを示している。IS に忠誠を誓うチュニジア人ジハード主義者は、国内で新たなテロを計画していることを明言しており、このような種類のテロのリスクは高まっている。

いる。現在は、チュニジア人の IS シンパのツイッター上のアカウントに転載されている。IslamicTunisia1. (2015, 30 March). *Tawdīh muqtaḍab ḥawla mā yajrī fi al-sāḥa al-tūnisīya*. [Twitter post]. Retrieved from <https://twitter.com/IslamicTunisia1/status/582642275265748993> [2015-4-15]

⁷ 同声明にはつぎのように記されている。「イスラームの同胞性及び神に至る道におけるジハードが前述の部隊と集団を結集させる。この地上における神の法による裁き (li-taḥkīm bi-shar‘ Allāh) のためである。[中略]彼らは密かに行動する。彼らのあいだに対立も問題もなく、いくらかの活動において協働する。」IslamicTunisia1. (2015, 30 March). *Tawdīh muqtaḍab ḥawla mā yajrī fi al-sāḥa al-tūnisīya*. [Twitter post]. Retrieved from <https://twitter.com/IslamicTunisia1/status/582642275265748993> [2015-4-15]

⁸ この声明は、Yawm ‘Ādī: Ta‘līqan ‘alā ‘Amaliya Bārdū al-Mubāraka (日常の一日: 祝福されたるバルドー作戦の解説) というタイトルで、2015 年 3 月 18 日付でアップロードされた (<https://mdwn.me/yabo/>) が、現在は閲覧することができなくなっている。テキストは著者が保有している。